

2025年2月期 第2四半期(中間期)

決算説明会

2024年10月8日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570(東証プライム・その他金融)

中間期 決算サマリ

連結業績は増収増益

事業ポートフォリオの見直しが進み、成長性の高い領域への経営資源を集中

業績好調に推移

連結営業収益の順調増(YoY108%)に対し、費用増加の抑制(YoY105%)により
連結営業利益は271億円(YoY134%)

- 国内: 決済および銀行収益に加えフィー収益も拡大。販促費を中心に費用効率の向上が継続
- 国際: 各エリア営業収益は過去最高 デジタルバンク開業費用を除くと国際事業全体で増収増益

高利回り営業債権残高(※債権流動化後)の増加により、資産収益性が向上

高利回り債権残高比率の拡大(国内17.1%/YoY+1.0pt)が収益貢献

- 国内: 7,640億円(YoY113%/期首差+537億円)、国際: 9,723億円(YoY111%/期首差+666億円)

事業ポートフォリオの見直し進む

成長領域への経営資源の集中に向け、事業休止・撤退および集約化を実行

2025年2月期 中間期 連結業績ハイライト

	連結		国内		国際		24年度通期 連結見通し	進捗率
		YoY		YoY		YoY		
営業収益	2,557 億円	108 %	1,484 億円	103 %	1,084 億円	115 %	5,200 億円	49 %
営業利益	271 億円	134 %	94 億円	592 %	175 億円	95 %	550 億円	49 %
経常利益	271 億円	127 %	—	—	—	—	550 億円	49 %
親会社株主に 帰属する 中間純利益	102 億円	141 %	—	—	—	—	210 億円	49 %

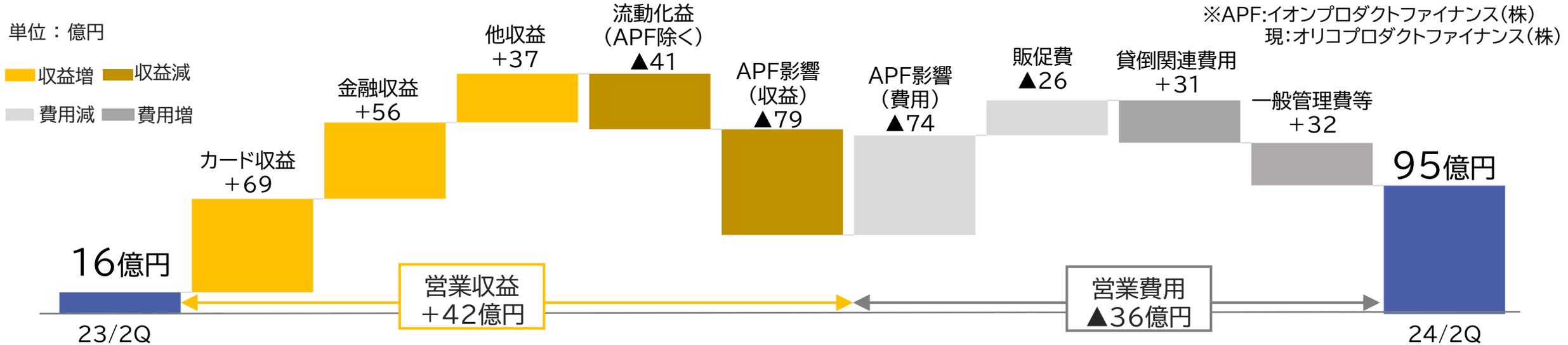
2025年2月期 2Q会計期間(3ヶ月間) 連結業績ハイライト

	連結		国内		国際	
	金額	YoY	金額	YoY	金額	YoY
営業収益	1,278 億円	106 %	731 億円	101 %	553 億円	113 %
営業利益	118 億円	107 %	31 億円	414 %	88 億円	85 %
経常利益	111 億円	95 %	—	—	—	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	41 億円	114 %	—	—	—	—

※23年6月実施の国内経営統合により、これまで調整額に計上していたイオンフィナンシャルサービス(株)の業績を国内セグメントに計上
24年2月期 2Q会計期間(3カ月間)連結業績ハイライトはAppendixに掲載

[国内] 中間期営業利益 前年同期差内訳

- カード収益の順調な拡大及び金融収益計上により、債権流動化益の減少をカバー
- 費用効率を重視した施策実行により販促費を抑制、貸倒関連費用の増加は残高増と比例



主な内容

[営業収益]

- カード収益 +69億円
(包括購入あっせん収益+49億円、融資収益+19億円)
- 金融収益 +56億円
(利息・配当+23億円、有価証券売却益+22億円)
- 他収益 +37億円
(フェリカポケットマーケティング連結影響 +21億円、
保険販売手数料(役務取引収益)+9億円)

[営業費用]

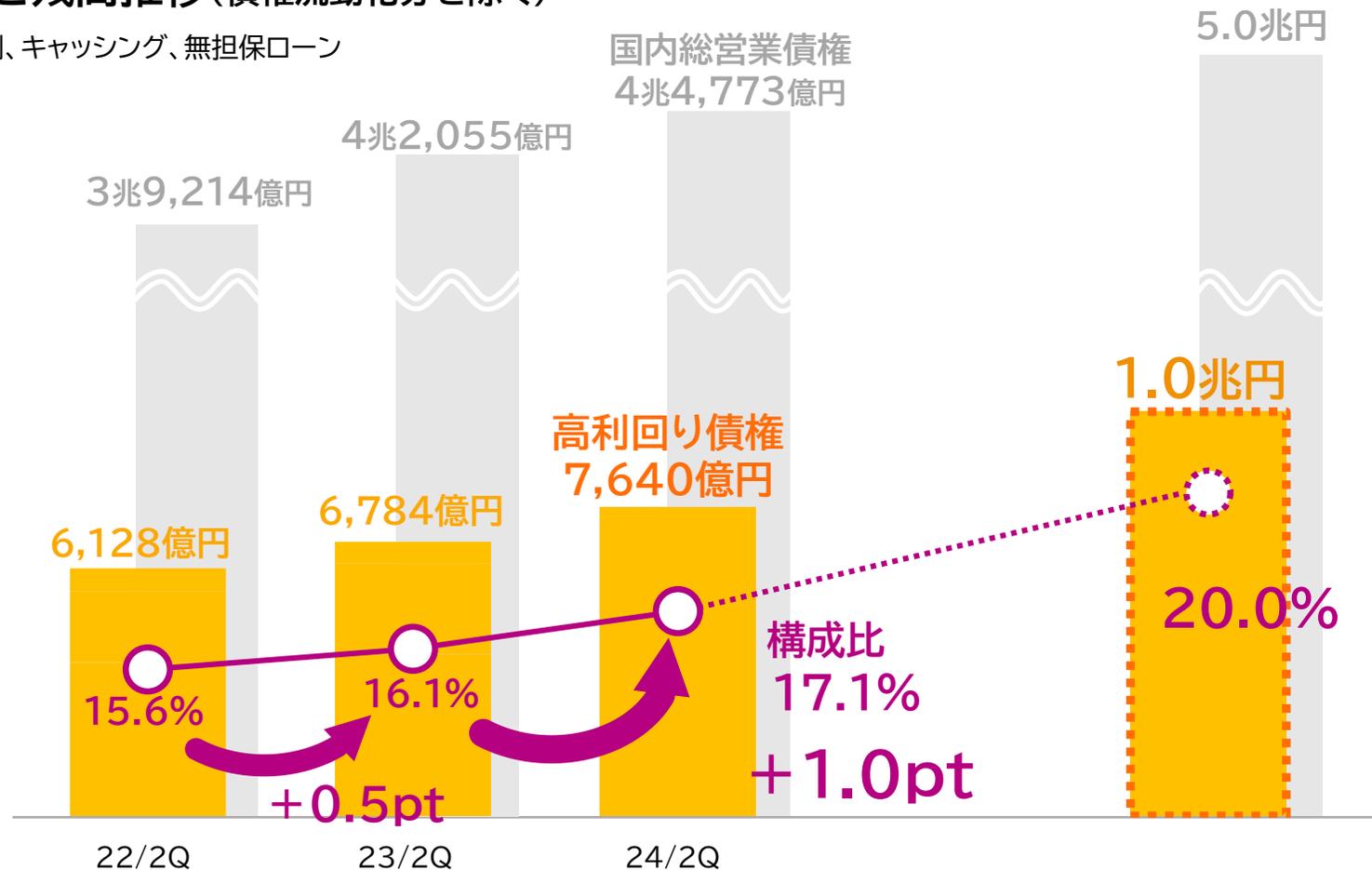
- 販促費 ▲26億円
(販促費の効率性向上)
- 貸倒関連費用 +31億円
(営業債権残高拡大による影響)
- 一般管理費等 +32億円
(フェリカポケットマーケティング連結影響 +18億円、人件費 +7億円)

[国内] ストック収益の基盤構築

- 国内営業債権残高に占める「高利回り債権比率」が改善し、資産収益性が向上
- 前年同期と比較しても、積み上げが加速

高利回り債権比率と残高推移(債権流動化分を除く)

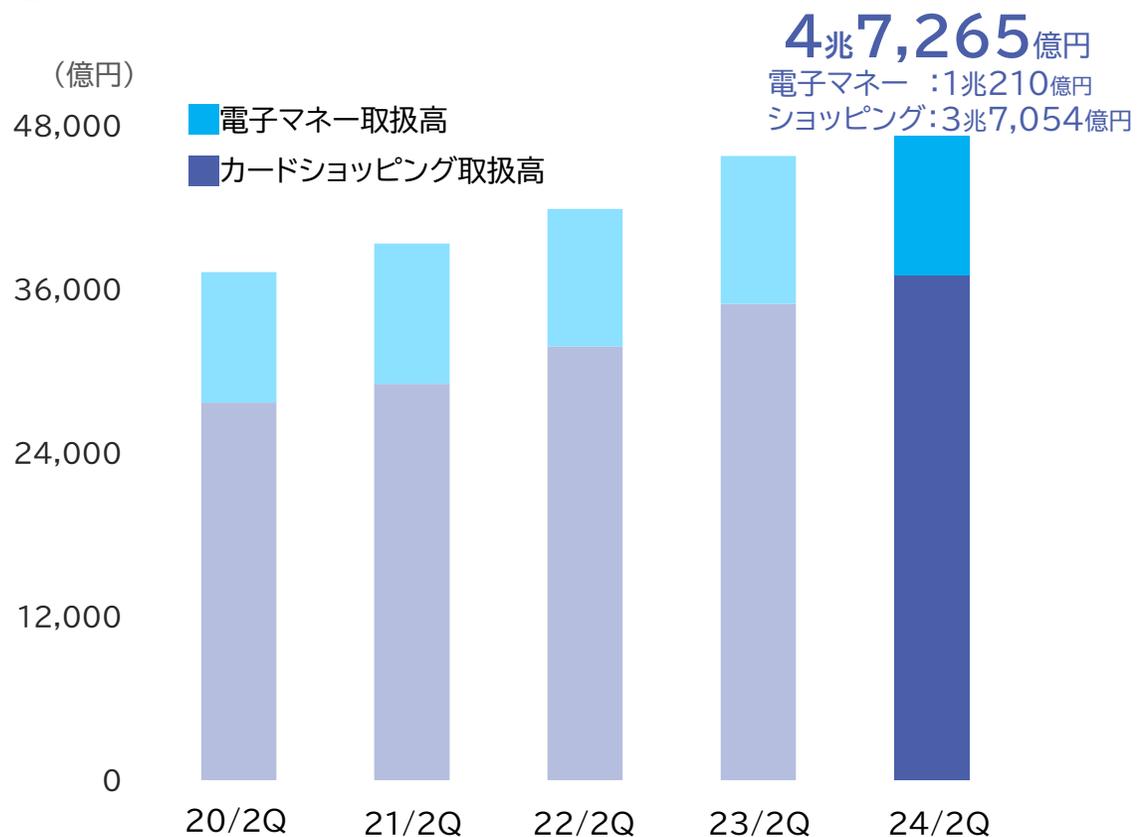
※高利回り債権:リボ・分割、キャッシング、無担保ローン



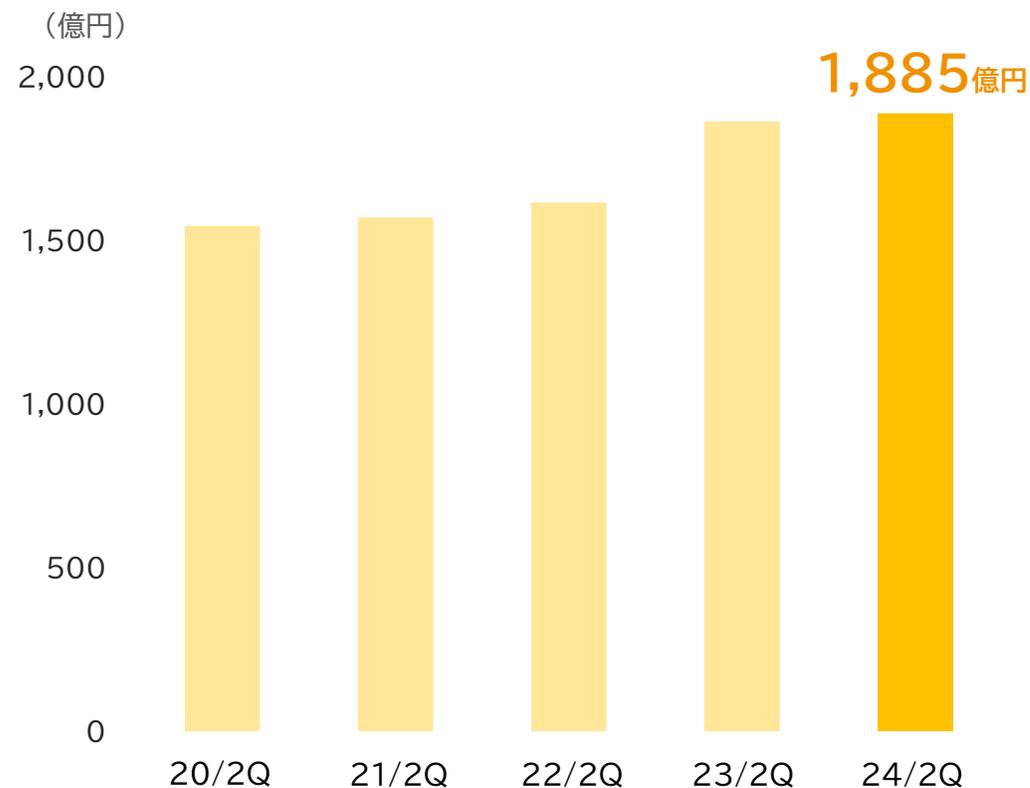
[国内] クレジットカード、電子マネー

- ショッピング取扱高はイオングループでの特典浸透やAEON Pay利用促進が貢献しYoY106%
- キャッシング取扱高は継続した利用促進策により、前年を上回りYoY101%

決済取扱高



キャッシング取扱高



〔国内〕 グループシナジーの拡大

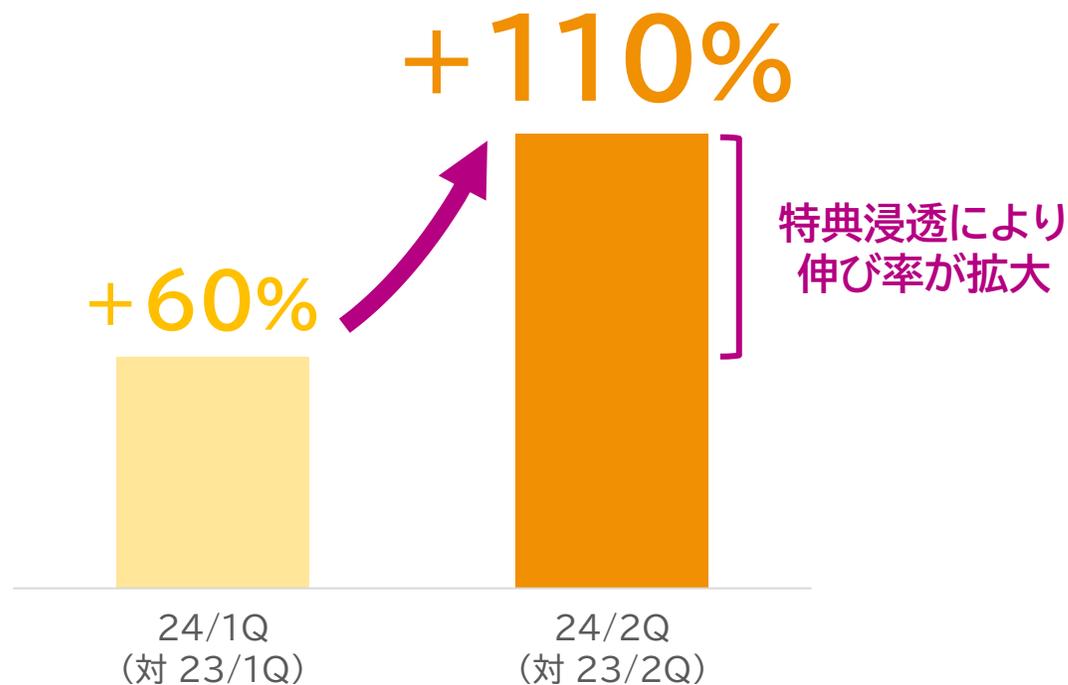
- 4月に開始したイオンモールでのゴールド会員向け特典の浸透が進み、感謝デーの取扱高拡大
- グループ利用における魅力度を高め、さらなるグループシナジー拡大を図る

イオンモールでの新特典(24年4月～)

イオンモールの専門店での
毎月20日・30日 5%OFF



感謝デー ゴールドカード取扱高伸び率 (イオンモールでの前年同日・同規模比較)

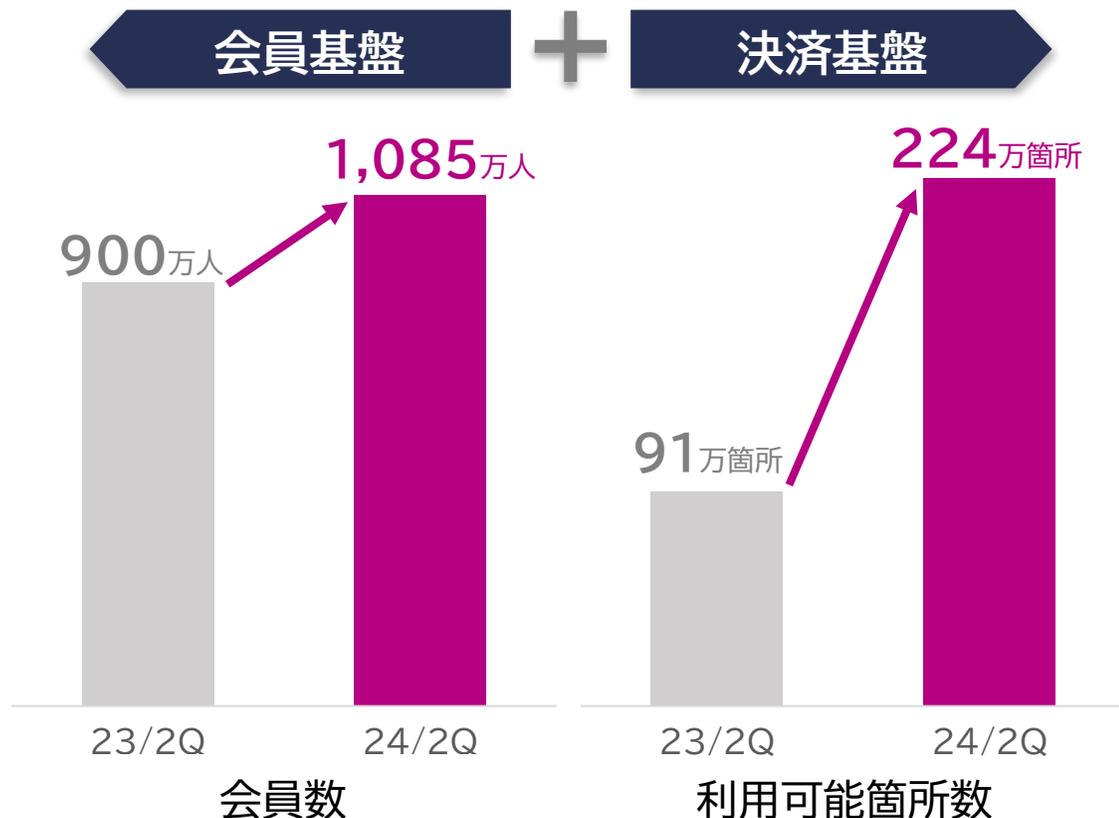


※1Qは4～5月の比較

[国内] AEON Pay

- AEON Pay会員数、利用可能箇所数とも順調に増加 決済インフラとしての環境整備が進捗
- 少額決済の取り込みや、グループ共同の利用促進施策などにより1人当たり決済額が拡大

| 会員数・利用可能箇所数



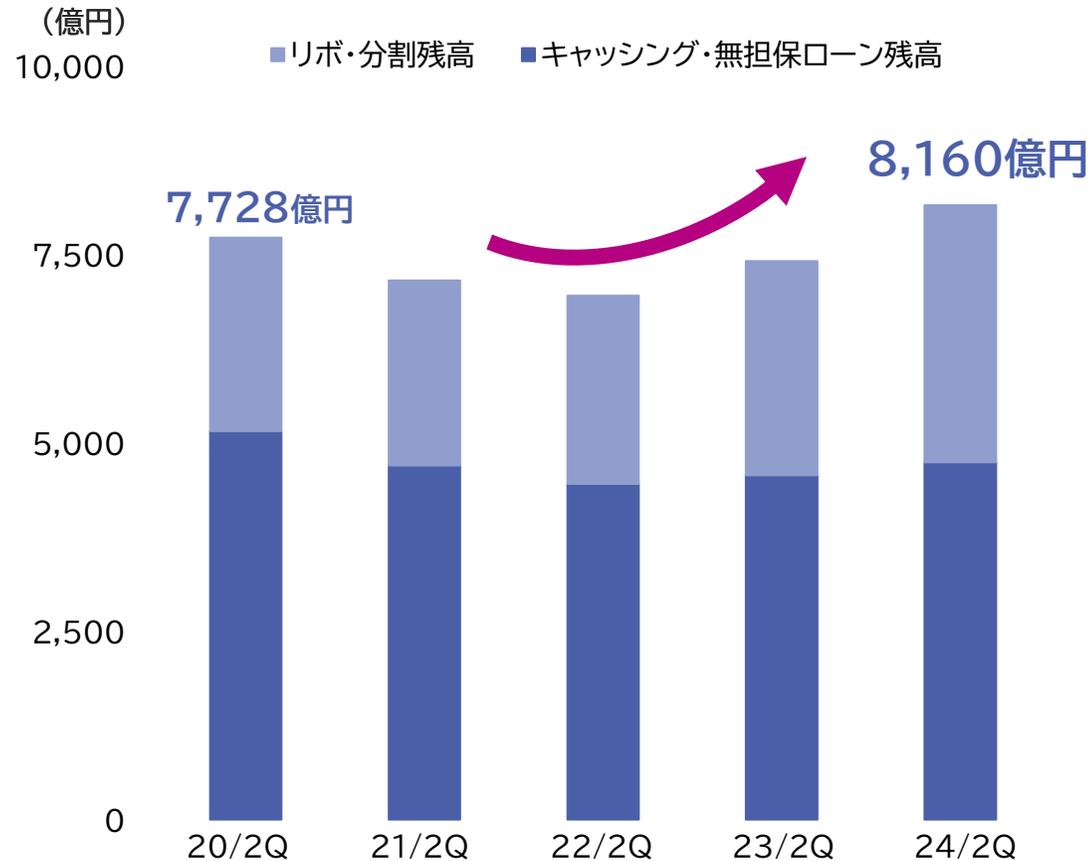
AEON Pay会員 決済金額
対 AEON Pay未登録会員
+5,500円/月 (23/2Q)

+17,500円/月

[国内] 高利回り債権残高の獲得状況

- アプリのUI/UXの改善などにより、リボ・分割、キャッシングとともに債権残高は順調に増加

高利回り債権残高(債権流動化分を含む)



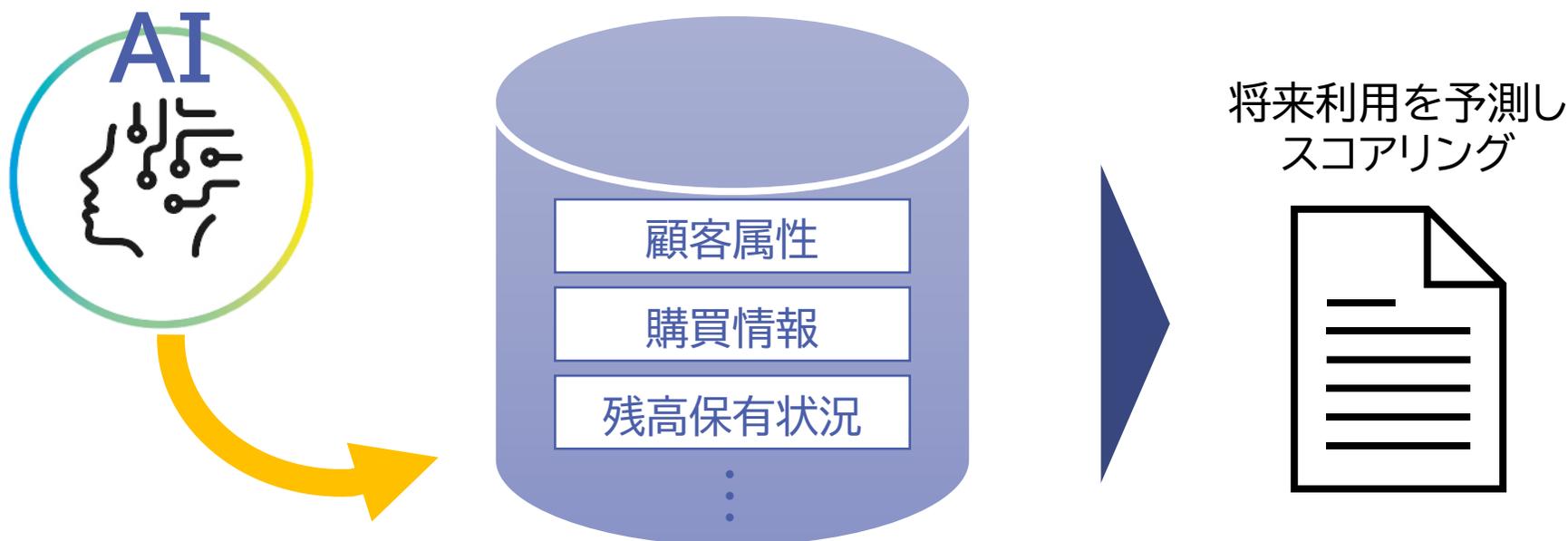
増減内訳

	YoY	期首差
■ ショッピングリボ	120%	+272億
■ 分割払い	115%	+33億
■ キャッシング	105%	+92億
■ 無担保ローン (銀行カードローン等)	97%	▲8億
計	110%	+390億

[国内]高利回り債権残高拡大の取り組み

- 継続したUI/UXの改善に加え、AIを活用した利用予測スコアの高い会員へのアプローチ強化

AI活用によるターゲティング強化



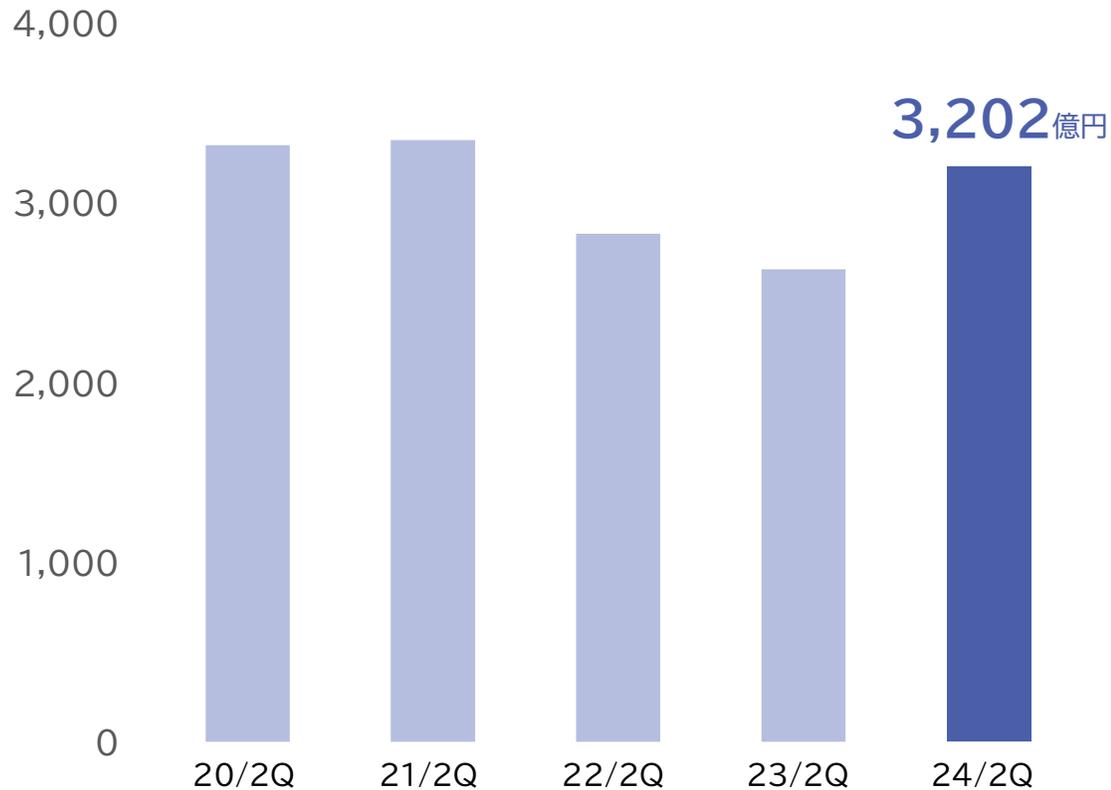
従来のターゲティング販促と比較し **稼働率が倍増**

[国内] 住宅ローン

- 独自特典「イオンセレクトクラブ」での金利以外のメリット訴求により、取扱高はYoY 122%
- 5月、10月に金利改定を実施し、今後の収益拡大を見込む

住宅ローン取扱高

(億円)



金融と小売りのサービス連携



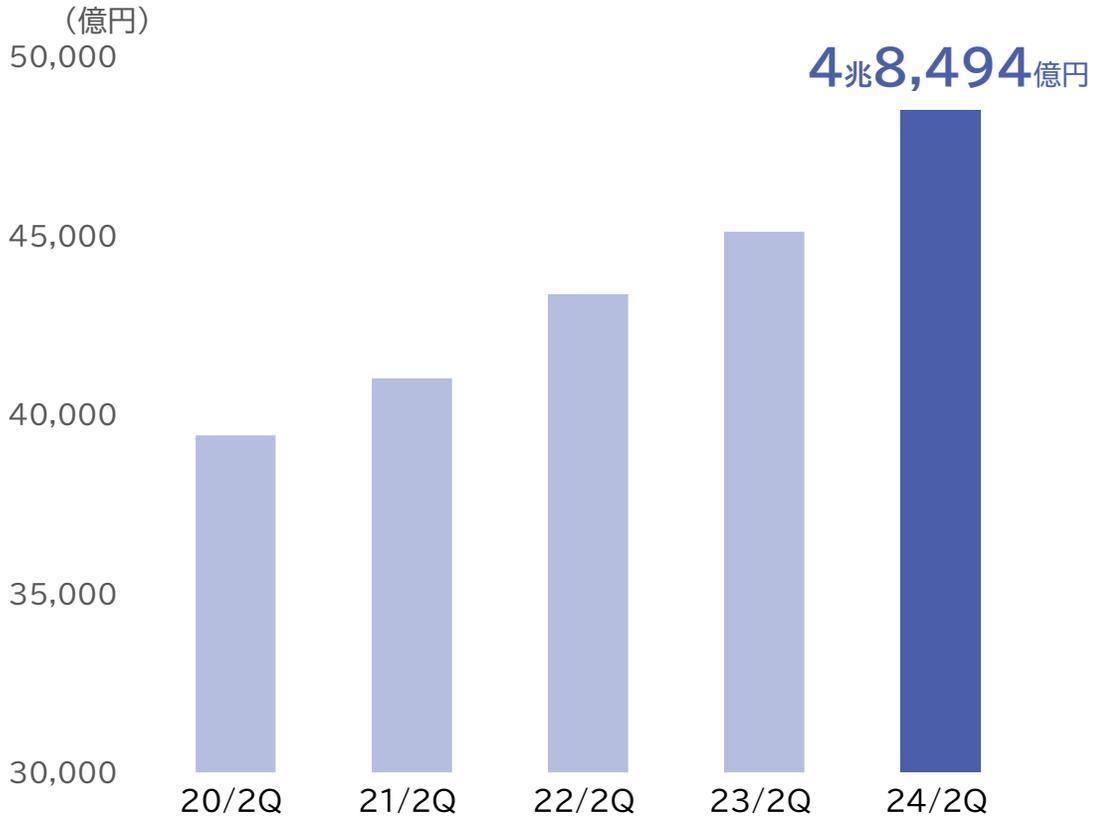
住宅ローン金利改定と収益への反映



[国内] 銀行預金

- 定期預金キャンペーンなどによりYoY107%、期首差3,101億円増
- カード引落や給与振込設定など生活口座としての利用を促進し、粘着性の高い預金を獲得

イオン銀行預金残高



生活口座としての利用促進

定期預金

- 給与振込・年金受取設定時の優遇金利の提供



普通預金

- お取引に応じたステージ別金利の提供

イオン銀行Myステージ

お取引内容に応じた優遇制度

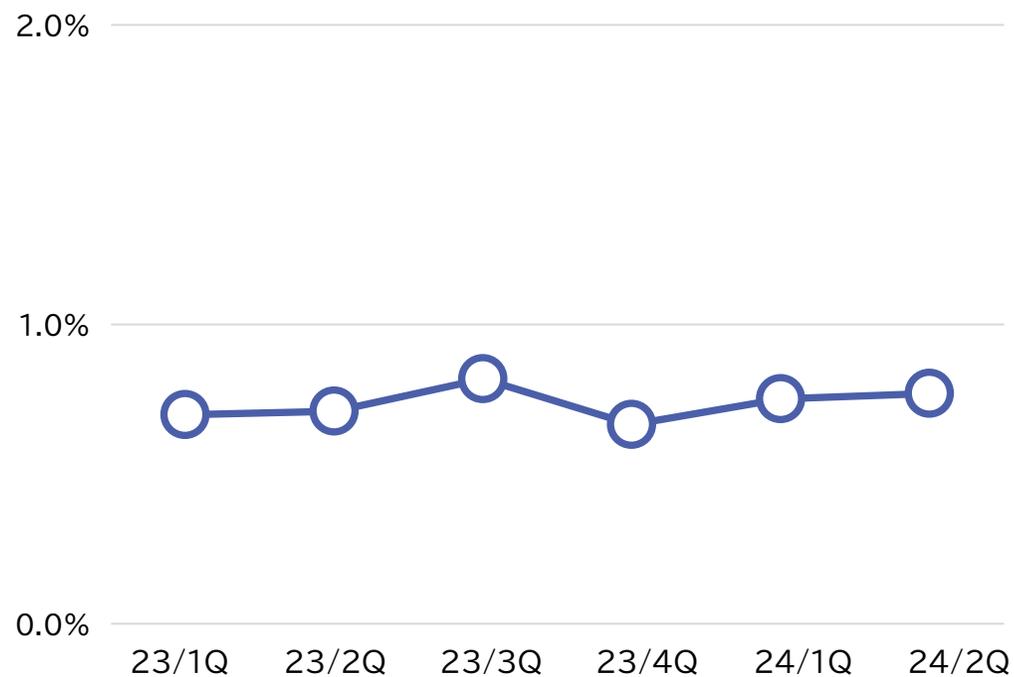


[国内] 費用コントロール

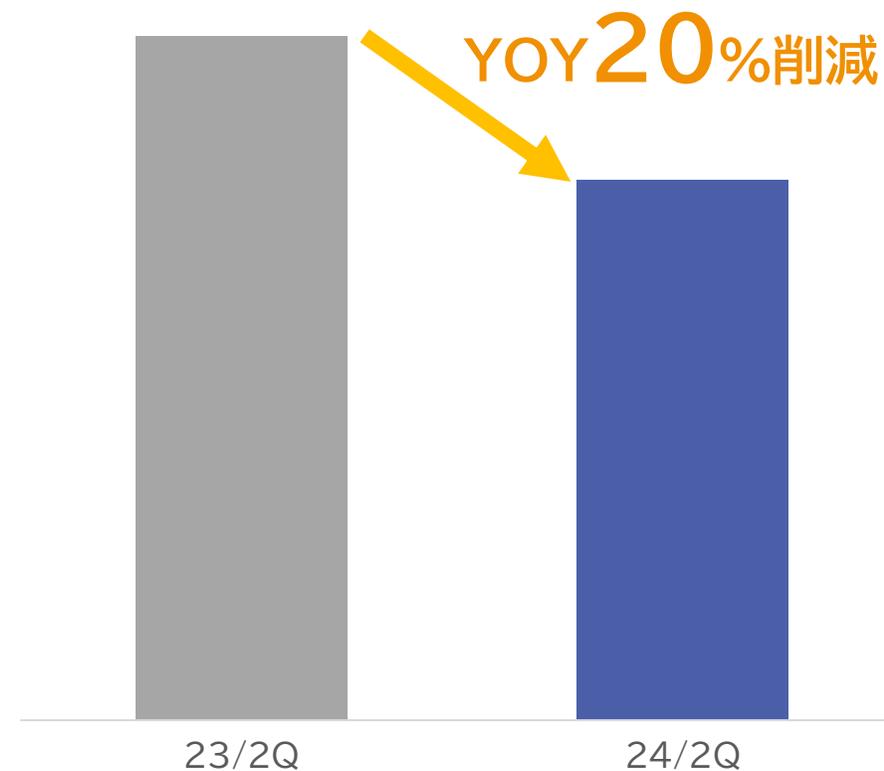
- 営業債権残高に対する貸倒関連費用の比率は低位で推移
- 店頭及びインターネット募集の運用見直しにより、獲得効率の改善は継続

貸倒関連費用率の四半期推移

※リボ・分割、キャッシング、無担保ローンの合計残高に対する貸倒関連費用率



1会員あたり獲得コスト(中間期)



[国際] セグメント別 業績ハイライト

- 中間期営業収益は3エリアともに過去最高 デジタルバンク開業に伴う費用を除けば増益
- 会計期間(3か月間)ではメコン圏が増益に転換

中間期 (6ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	1,084 億円	115 %	172 億円	121 %	476 億円	106 %	435 億円	125 %
営業利益	175 億円	95 %	39 億円	93 %	68 億円	99 %	67 億円	92 %
<参考> 貸倒関連費用	351 億円	121 %	46 億円	158 %	173 億円	105 %	131 億円	137 %

2Q会計 (3ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	553 億円	113 %	86 億円	116 %	245 億円	105 %	220 億円	123 %
営業利益	88 億円	85 %	20 億円	96 %	42 億円	101 %	25 億円	63 %
<参考> 貸倒関連費用	180 億円	127 %	23 億円	133 %	85 億円	106 %	71 億円	166 %

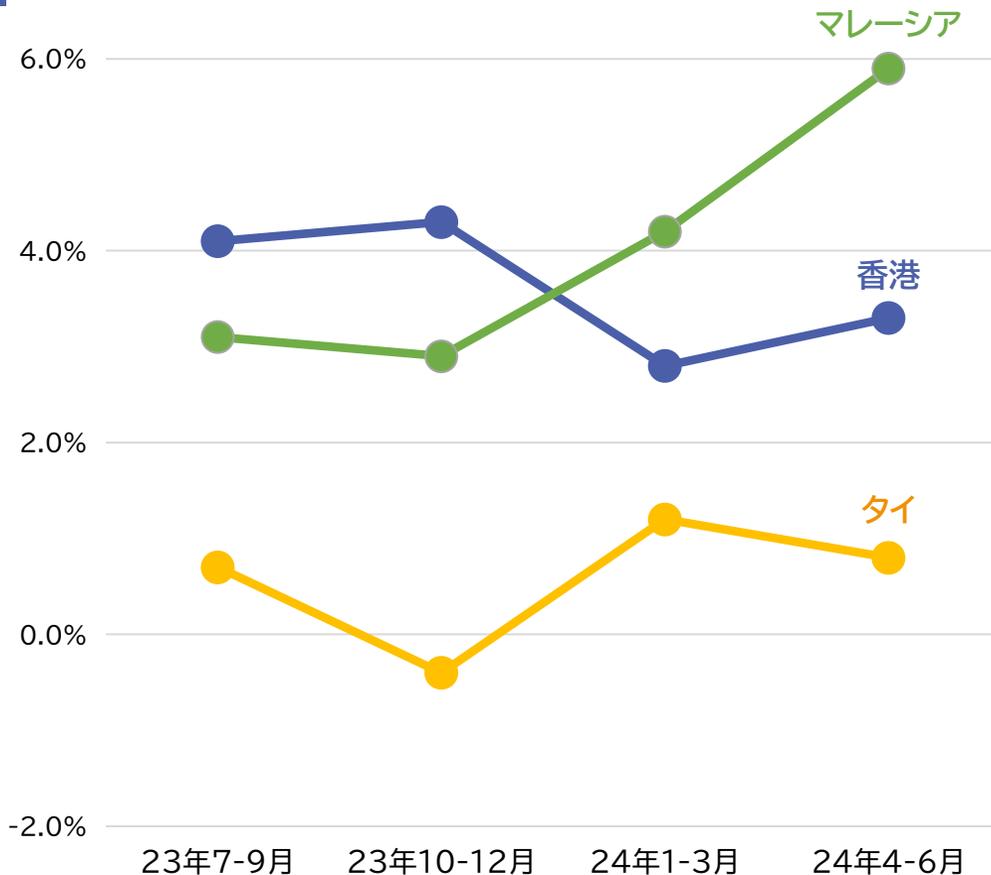
期中平均レート ※()内は前年同期差

HKD : 19.63円(7.3%円安) THB : 4.25円(4.2%円安) MYR : 32.96円(6.2%円安)

〔国際〕 各エリア別の環境

- マレーシアが他国に先んじて回復 個人消費が好調
- 一方、香港は内需の減少や個人の破産申請件数の高止まりが継続、タイはGDP成長率も停滞

実質GDP成長率推移



マレー圏(マレーシア)

- 個人消費の増加に加え、主要産業がすべてプラス成長となり、成長率が加速
- 失業率がコロナ後最低(3.3%)で推移し、雇用も安定

中華圏(香港)

- 物価の安い中国での消費(北上消費)が増加し、内需が減少したこと等で成長率が鈍化
- 昨年下期から増加した個人の破産申請件数が高止まり

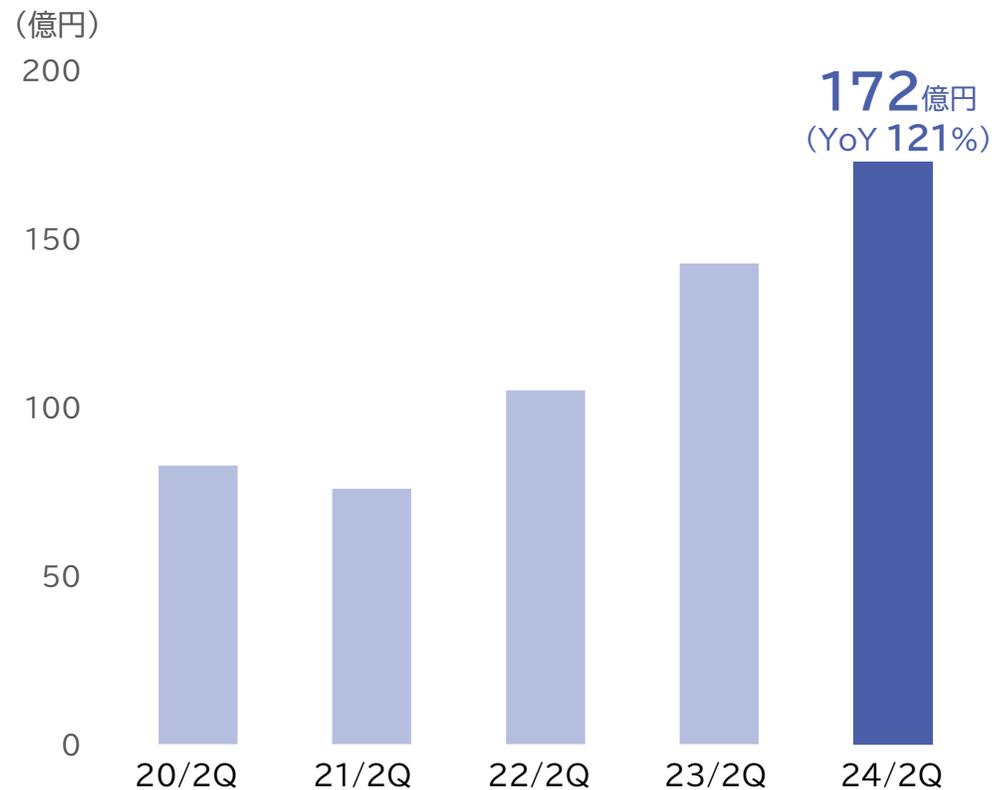
メコン圏(タイ)

- 物価高に伴う民間消費の鈍化は継続 農業生産や製造業等の輸出は回復基調も、中国経済の影響を強く受ける
- 9月より政府施策として1万バーツの給付金を配布開始

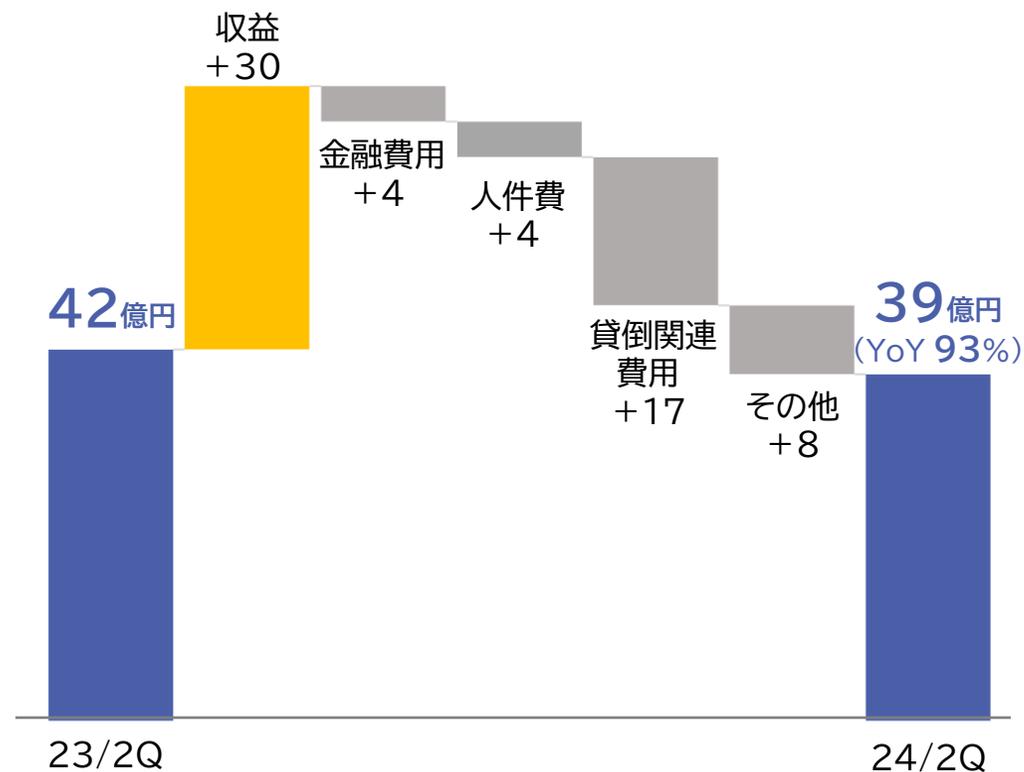
[国際] 中華圏の業績ハイライト

- 北上消費需要の取り込みなど環境変化への対応が奏功し、収益は過去最高を更新
- 引当率見直しにより貸倒関連費用増も、スコア活用による審査・途上与信強化の効果が徐々に発現

営業収益



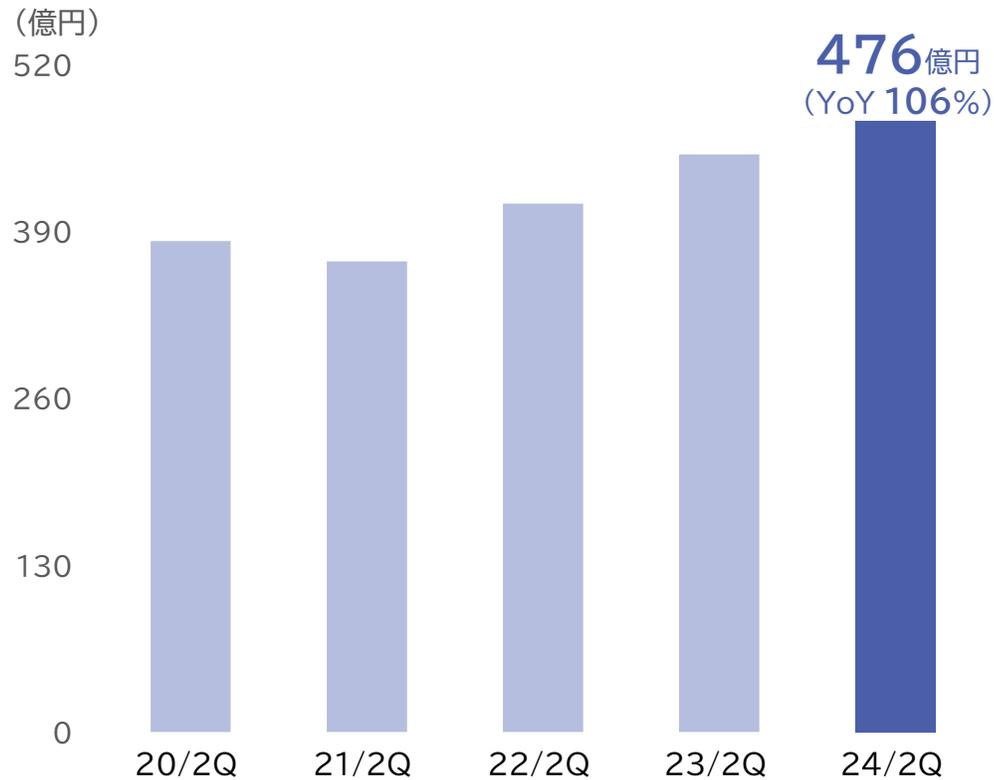
営業利益前期差内訳



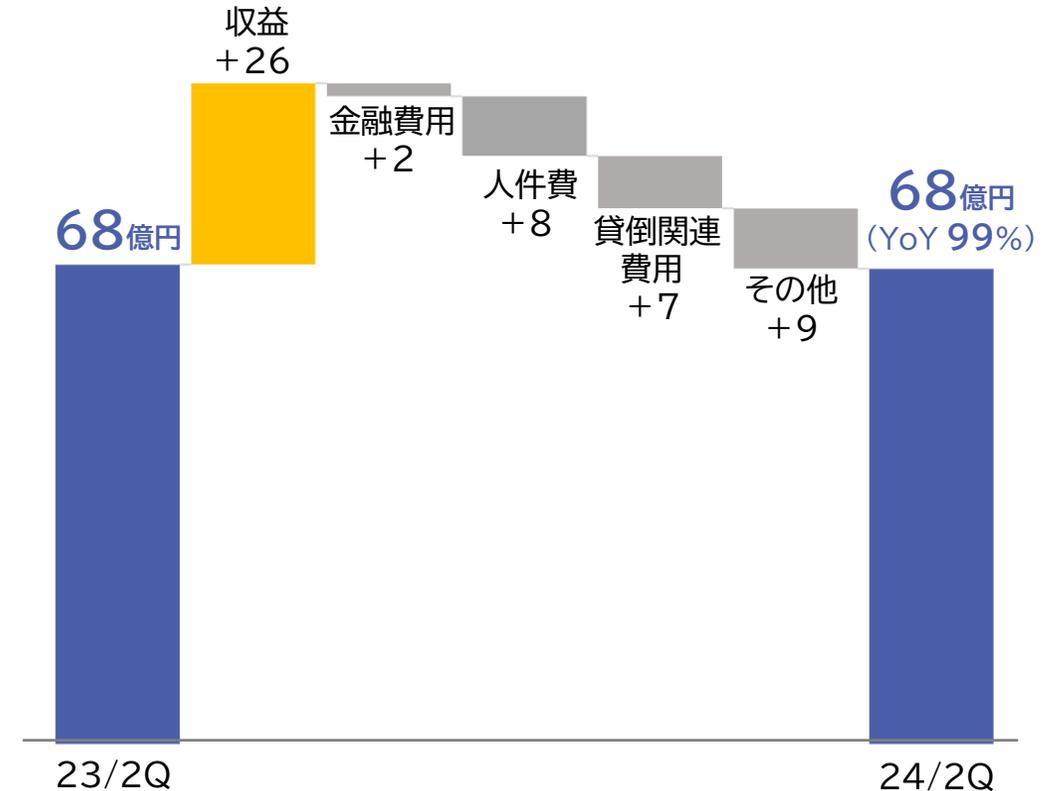
[国際] メコン圏の業績ハイライト

- 会員基盤の拡充、カードショッピングを中心とした取扱高が拡大
- 営業収益は増加も、人件費や貸倒関連費用の増加により、営業利益はほぼ前年同期水準に

営業収益



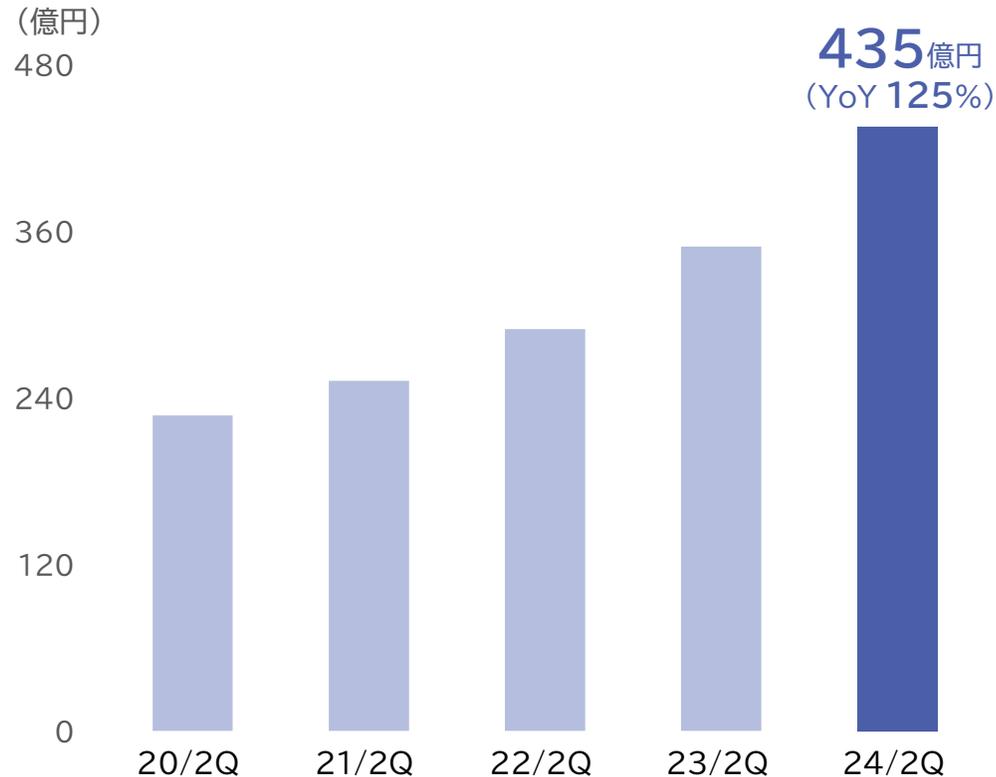
営業利益前期差内訳



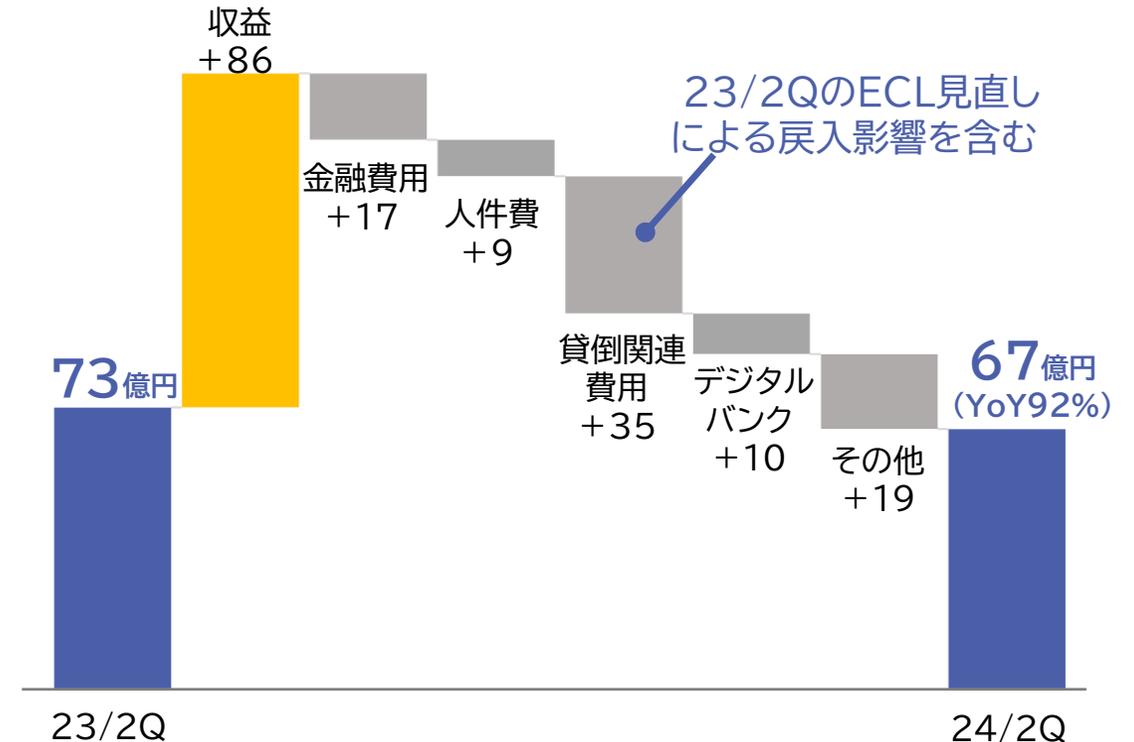
〔国際〕 マレー圏の業績ハイライト

- イオングループや加盟店との販促強化により個品割賦、個人ローンなどの取扱高・残高が増加
- 貸倒関連費用は前年同期の戻入により前年対比で増加も、デジタルバンク開業の費用増を除くと増益

営業収益



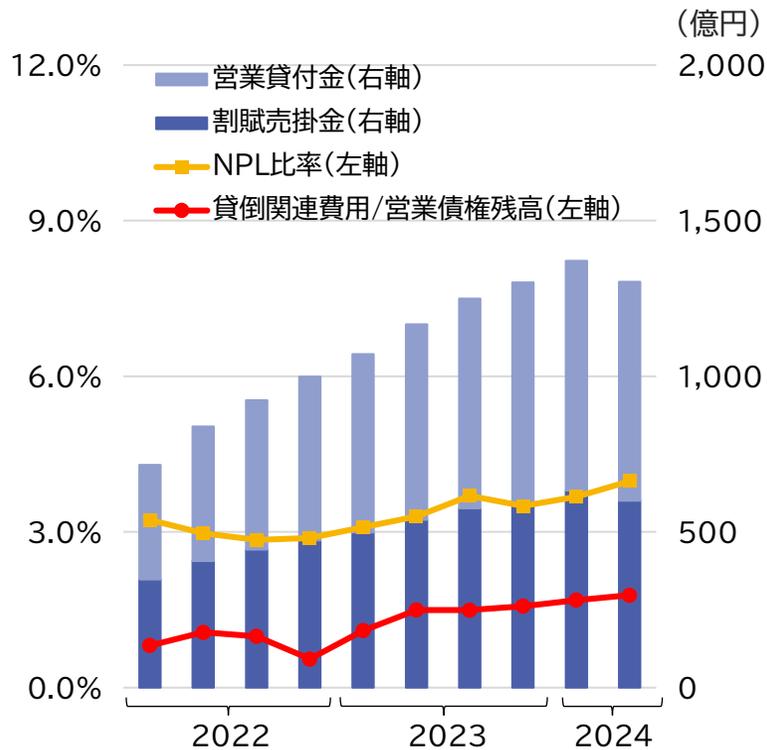
営業利益前期差内訳



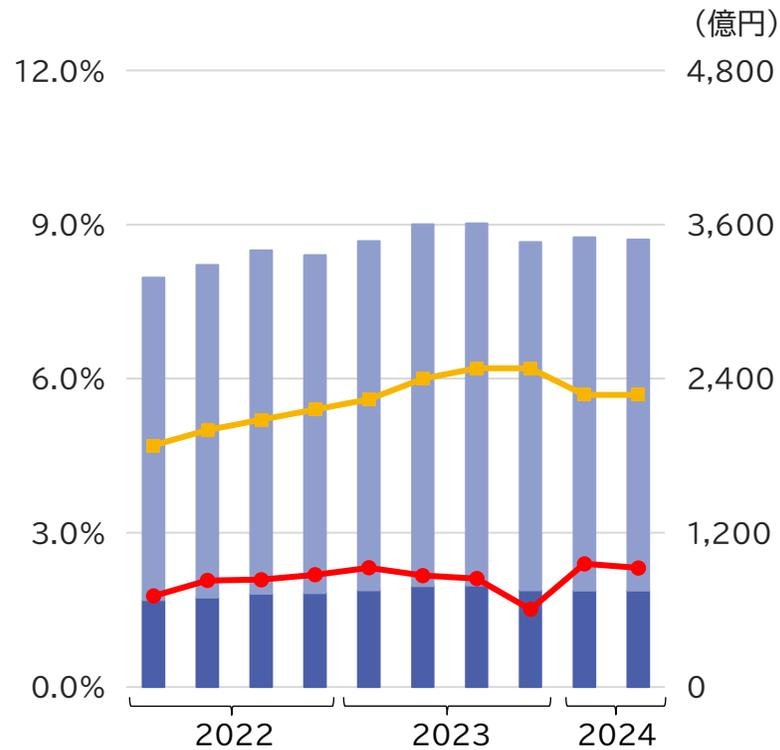
[国際] 上場子会社の債権残高およびNPL推移

- 香港: 引当率見直しにより貸倒関連費用が増加 円ベースの債権残高は為替により減少(香港ドルでは増加)
- タイ: 貸倒関連費用、NPL比率ともに安定基調に転換
- マレーシア: 債権残高増加により貸倒関連費用も増加も、正常債権の増加によりNPL比率は低下

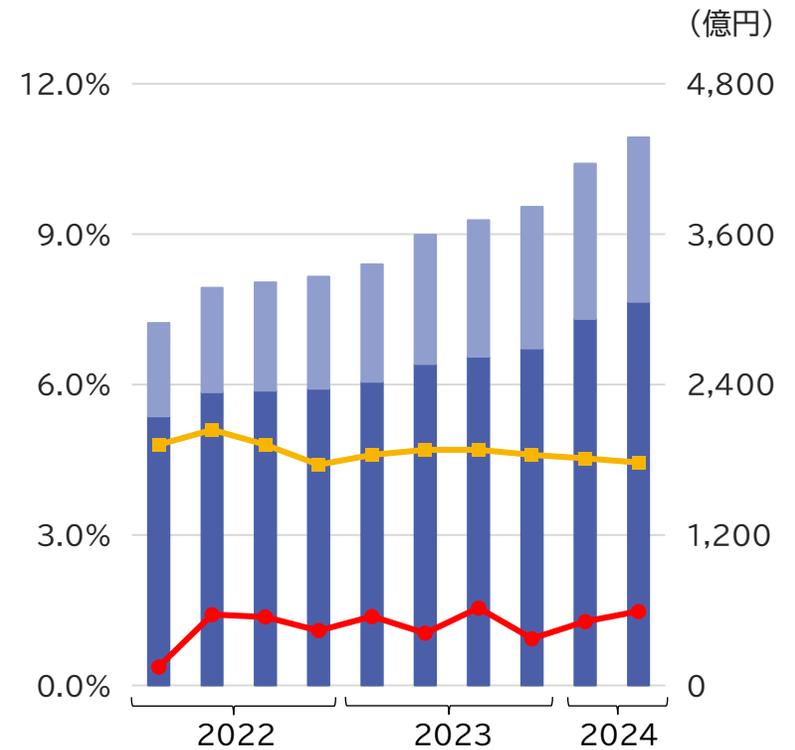
■ ACSA(香港)



■ AEONTS(タイ)



■ ACSM(マレーシア)



期末日レート ※()内は前四半期差

HKD : 18.58円(7.3%円高)

THB : 4.26円(0.2%円高)

MYR : 33.58円(0.7%円安)



業績予想及び配当予想

2025年2月期 業績予想及び配当予想

	連結	YoY	国内		国際	
				YoY		YoY
営業収益	5,200 億円	107 %	3,100 億円	105 %	2,100 億円	108 %
営業利益	550 億円	110 %	150 億円	129 %	410 億円	107 %
経常利益	550 億円	107 %	1株あたり配当金		配当性向	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	210 億円	100 %	年間: 53 円	中間: 25 円 期末: 28 円	54.5 %	

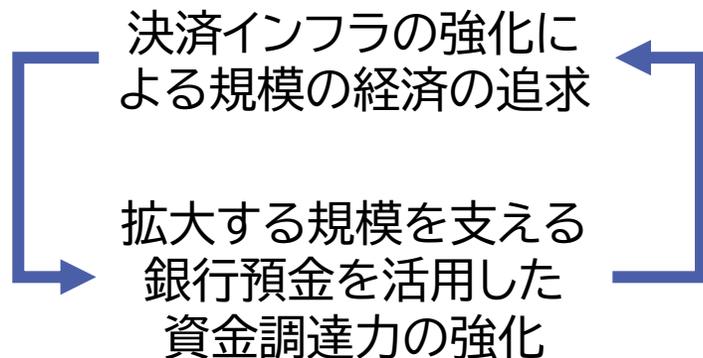


重点实施事项

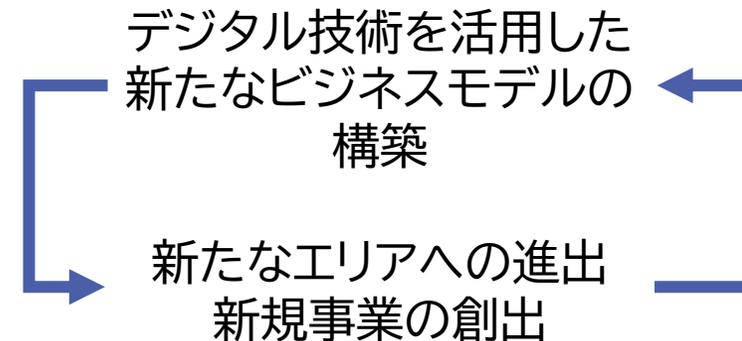
- 事業環境の変化を踏まえた“選択と集中”により、事業ポートフォリオを見直し
- コア事業である国内決済の規模拡大と、成長分野である海外へリソースを集中

最適な事業ポートフォリオに向けた“選択と集中”

国内・コア領域の強化



海外・成長領域の拡大



リソース・投資の集中

外部との事業提携・連携

IN・OUTを含むM&A

事業ポートフォリオの見直し

- 成長領域での展開強化に向け、“選択と集中”による経営資源・投資の最適化を進める

経営資源・投資の最適化

I 事業ポートフォリオの見直し進行

- 国内個品割賦事業(イオンプロダクトファイナンス)の譲渡
- ミャンマーおよびフィリピンのファイナンス事業(個品割賦・個人向けローン)休眠化・撤退

III 拠点・機能の集約による生産性の向上

- ショッピングセンター内の店舗および
コンタクトセンター機能の集約、一本化を推進

成長領域での展開強化

II 新規ビジネス・新たなエリアでの事業展開

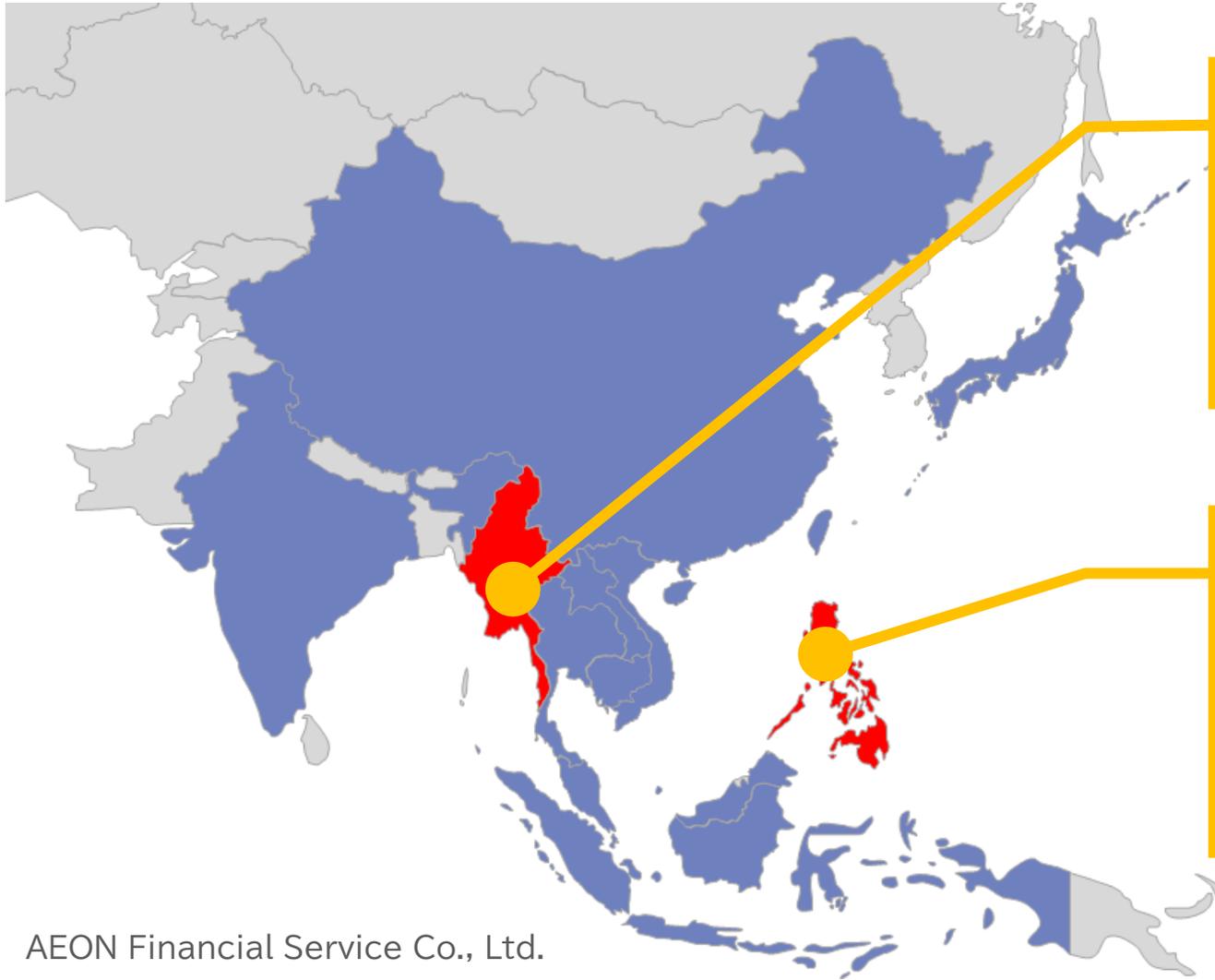
- マレーシア・デジタルバンク事業の開業、
ベトナム・ファイナンス事業など成長市場での
積極展開、イオン生活圏を構築

IV グループシナジーの最大化

- イオングループのネットワーク活用による
中四国、北海道エリアでの基盤拡充
- イオングループ各社での魅力度向上

事業ポートフォリオの見直し進行

- 展開する各エリア・事業の競争力や将来成長性を鑑みたポートフォリオ見直しを進める
- 国内・個品割賦の譲渡に続き、ミャンマー・フィリピンのファイナンス事業整理を決定



ミャンマー（個品割賦、個人向けローン）

- 2012年 イオングループに先駆け展開開始
- 政治、経済環境が不安定

▶ 環境の安定化まで**休眠化**

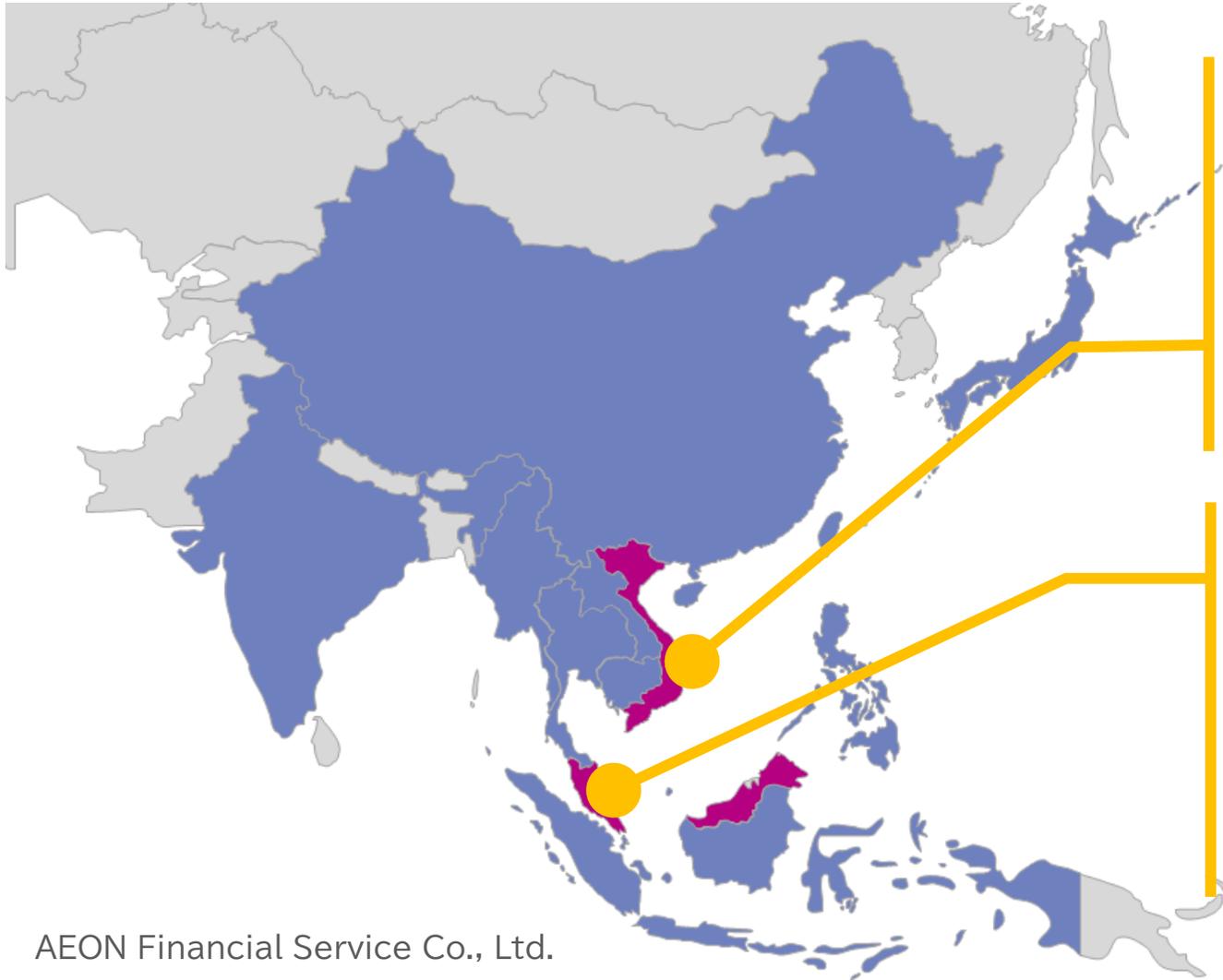
フィリピン（個品割賦・個人向けローン）

- 2013年 家電・家具を中心に個品割賦開始
- 成長戦略の検討における優先順位

▶ 競争優位発揮が難しく**撤退**

新規ビジネス・新たなエリアでの事業展開

- マレーシア・デジタルバンク事業、ベトナム・ファイナンス事業の拡大に向け体制強化
- ベトナムでは、既存事業と新規取得事業の連携に向けた体制整備が進む



ベトナム（個人向けローン等のファイナンス事業）

- 2008年 小売ライセンスにて自社割賦事業開始
- ファイナンスライセンスの新規取得が困難な中、個人向けローン等を提供するPTF社取得を決定

▶ **イオングループ注力エリアでの
グループシナジーの発揮**

マレーシア（デジタルバンク事業）

- 2022年 デジタルバンクライセンスを取得
- 現地での金融ノウハウ、顧客・加盟店基盤に加えイオングループでの生活圏構築をすすめる

▶ **他エリアでの横展開も含め
新規ビジネスの成長**

[マレーシア] デジタルバンク

- デジタル活用による新規ビジネス・展開エリアの拡大により、さらなる成長につなげる

AEON Bank(Malaysia)

イオングループ店舗でのイベント開催やSNS、外部広告を活用した認知度向上



グループ店舗でのイベント



駅や電車、街頭看板などの
露出強化



利用者の多いSNSや
インフルエンサーの活用

拠点・機能の集約による生産性向上

- コンタクトセンターやリアル店舗を集約
- ワンストップで金融サービスを提供し、顧客満足の上に加え生産性の向上を図る

<複数窓口に分散>

商品・サービスに応じ
お客さまが使い分ける必要



<決済・銀行・保険など金融関連を集約>

集約によりお客さまへのワンストップサービス提供

保険代理事業をイオン銀行に集約

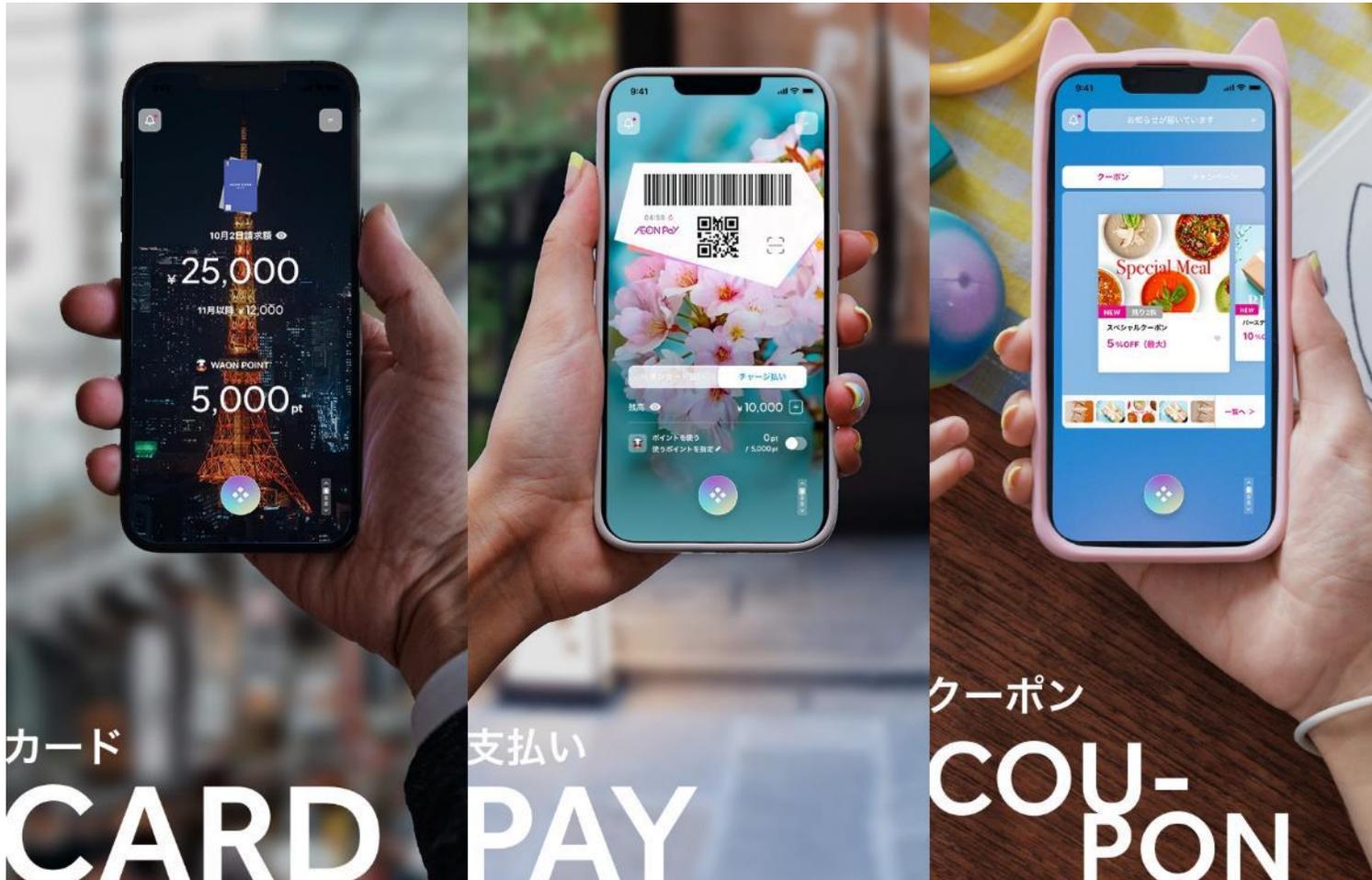
銀行	147店舗
保険	105店舗
計	252店舗

➤ **182店舗**

カード、銀行のコンタクトセンター機能集約
カードと銀行間で発生していた
電話転送 **2,500件/月削減**

スマホアプリ イオンウォレット

- 昨年度、総合金融アプリにリニューアル
- カードや銀行、保険サービスへいつでもシームレスにつながる環境を構築



各国デザイン賞でも評価



iF Design Award



ドイツ



A' Design Award



イタリア



International Design
Excellence Awards



アメリカ

[国内] グループシナジーの最大化

- イオングループのお客さま・お取引先をつなぐ“金融インフラ”の提供により、顧客基盤を拡大
- グループ各社での新たな特典付与などによる魅力度の向上を図る



新たなイオングループの
企業・店舗エリアでの
顧客基盤拡大

フジ(中国・四国エリア)や
旧・西友店舗(北海道)における
顧客基盤のさらなる拡大

 **FUJI**

約100店舗



特典・メリットの拡充による
日常利用の強化

特定日の特典(感謝デーなど)に加え
小売と金融が一体となった魅力度向上





サステナビリティ取り組み

マテリアリティの主要指標の設定

- ・「2030年のありたい姿」達成に向けたマテリアリティ主要指標を設定
- ・ 事業活動と連動させた各取り組みの深化を図っていく

持続可能な社会の実現を通じた「平和」への貢献	
人権	革新的な金融サービスを通じた幸せの追求 安全・安心で革新的な金融サービスの提供や、誰もが金融サービスにアクセスできるインフラの構築、ならびに金融リテラシーの向上を推進し、お客さまのより豊かな生活と幸せを追求します。
	人材の多様性と可能性の発揮 人間性と多様性を尊重し、個々の能力が最大限に発揮されるとともに、誰もが働き甲斐を感じる職場環境を実現することで、チームとしての目標達成を目指します。
レジリエントな経営基盤の確立 高い倫理観と規律ある人材育成および現場への権限委譲による迅速かつ柔軟な意思決定を実現します。 バリューチェーン全体におけるリスクマネジメント、経営管理の高度化によるガバナンスの進化ならびに強靱な企業体質の構築を目指します。	
気候変動等への対応 当社グループの提供する商品やサービスを通じ、お客さまや地域コミュニティと一体となって脱炭素化に取り組むべくビジネスモデルの転換により資源の有効活用を進めてまいります。	

**2030年までの
主要指標を設定**

**グループ全社で
推進する仕組みを構築**

マテリアリティ① 革新的な金融サービスを通じた幸せの追求

取り組み 金融サービスを通じて地域社会に貢献する

主要指標
(2030年度)

- ・金融包摂の取り組み推進
- ・地域やコミュニティとの連携
- ・金融サービスを通じた 災害対応支援



都市部へ働きに行く移動手段を得るための
バイクファイナンスを
マレーシア設立当初より提供

取り組み 金融教育を通じ、お客さま・お取引先さま・
従業員の生活を豊かにする

主要指標
(2030年度)

金融教育累計受講者数50万人
(国内:35万人、海外:15万人)



イオン1%クラブとAFSの金融体験イベントの実施

マテリアリティ② 人材の多様性と可能性の発揮

取り組み 従業員の多様性を尊重し柔軟で働きがいのある職場環境を構築する

主要指標
(2030年度) 従業員トレーニングの充実



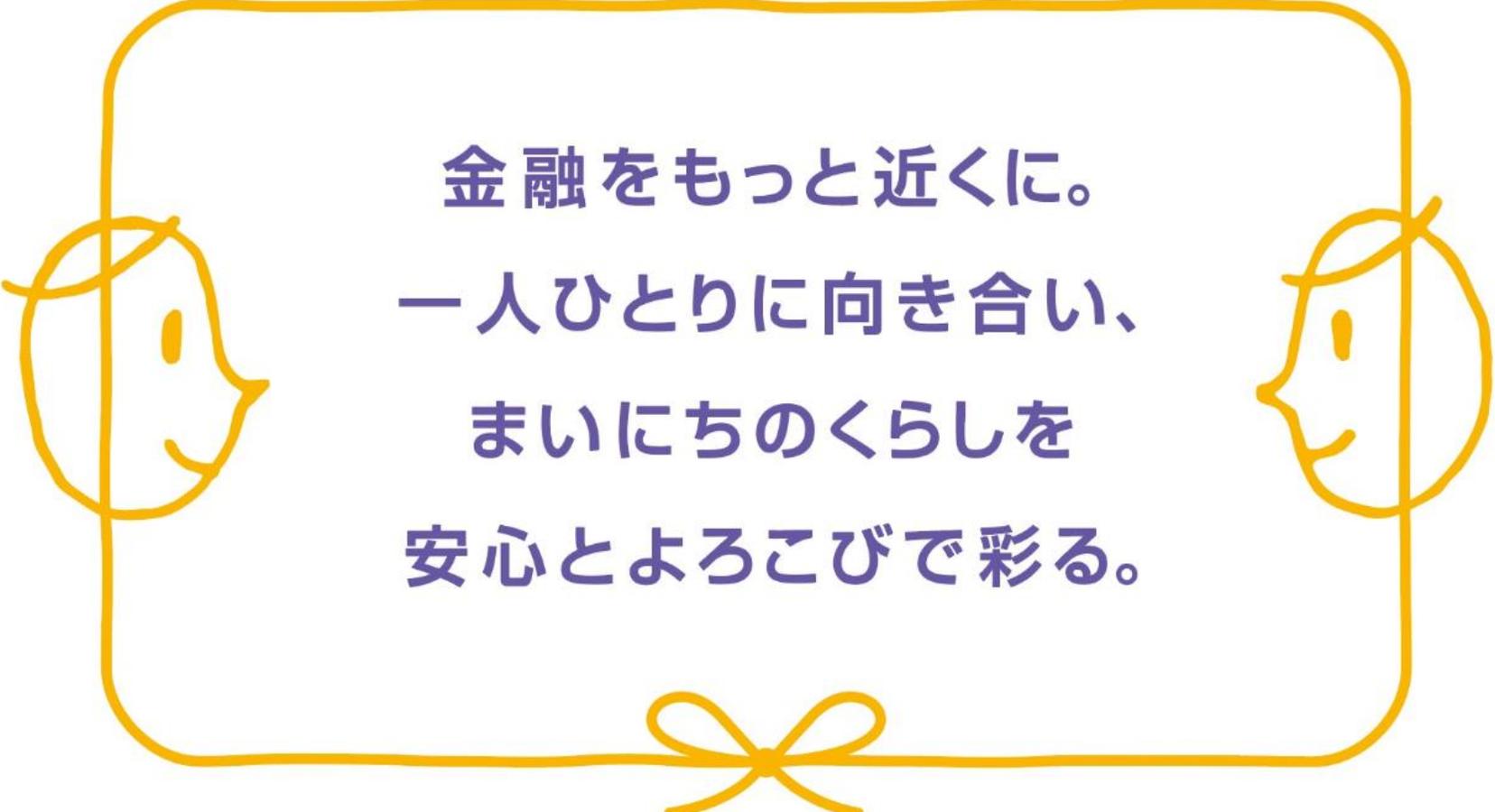
海外トレーニーでの実際の業務を通じた
キャリアデザイン支援

主要指標
(2030年度) 従業員エンゲージメントの向上

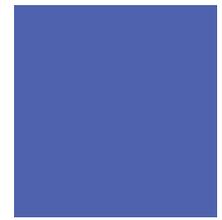


Our Purpose浸透に向けたミーティングを実施
マレーシアでは海外各社の推進担当者が集合

Our Purpose



金融をもっと近くに。
一人ひとりに向き合い、
まいにちのくらしを
安心とよろこびで彩る。



Appendix

金利環境の変化

- 国内は銀行預金中心の調達**の強み発揮** 海外は借入利率の低下による利ざやの改善を想定

国内

海外

金利環境
(外部環境)

日銀の金融政策変更による
利上げ継続の見通し

米国の利下げに伴う
展開国での金利低下の見通し

資金調達

イオン銀行の預金を中心とした調達

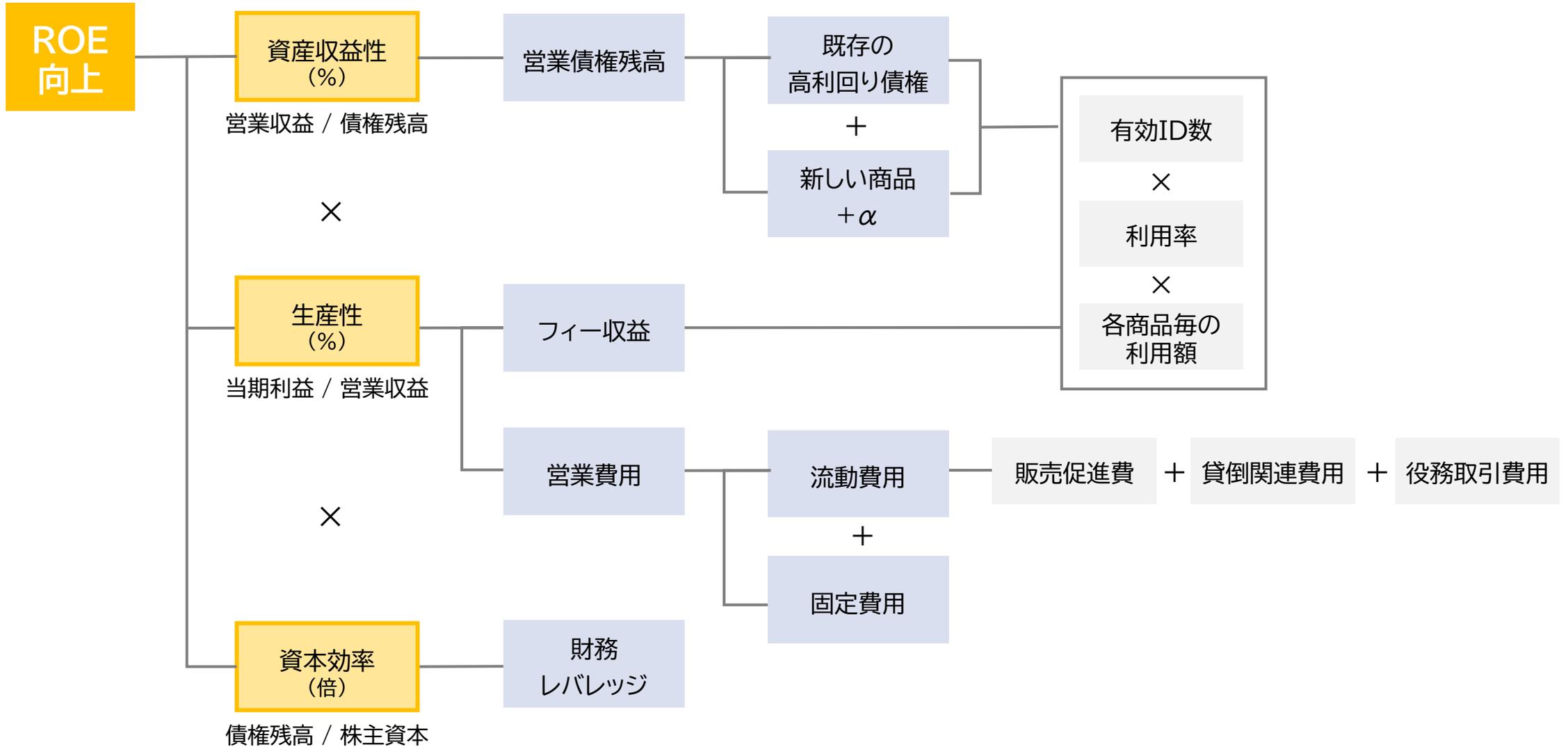
現地金融機関からの借入が中心

当社への影響

調達コスト増加はあるものの
変動金利のアセットの金利収益が増加し
中長期的な収支は改善

借入利率の低下による
収支の改善

【再掲】 ROE向上に向けた考え方



バランスシート状況

(単位:億円)

	FY 2024			FY 2024	
	中間期実績	期首増減		中間期実績	期首増減
現金預け金	6,110	▲ 545	預金	48,659	+3,276
営業貸付金	9,442	+253	買掛金	3,971	+1,286
銀行業における 貸出金	26,840	+3,448	有利子負債 (預金除く)	12,448	▲ 682
割賦売掛金	18,012	▲ 422	その他	2,212	▲ 300
貸倒引当金	▲ 1,163	+43	負債合計	67,292	+3,580
その他	13,887	+895	純資産合計	5,836	+92
資産合計	73,128	+3,673	負債及び 純資産合計	73,128	+3,673

セグメント別業績

(億円)	国内計			国際計			連結計	
	※1	リテール	ソリューション	※1	中華圏	メコン圏		マレー圏
営業収益	1,484	958	922	1,084	172	476	435	2,557
前期比	103%	112%	99%	115%	121%	106%	125%	108%
営業利益	94	53	41	175	39	68	67	271
前期比	592%	1723%	185%	95%	93%	99%	128%	134%
営業利益率	6.4%	7.4%	4.5%	16.2%	23.0%	14.3%	15.5%	10.6%
前期差	+5.3pt	+6.9pt	+2.1pt	▲3.4pt	▲6.9pt	▲1.0pt	▲5.4pt	+2.1pt

(参考) 債権流動化による収益影響 22 億円 (前期差▲64億円) ※2

※1 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引の相殺消去後であり、連結計には、本社・機能会社および連結消去額を含む

※2 23年度より、流動化収益の計上方法を一部変更 なお、従来方式での収益影響は15億円(前期差▲56億円)

エリア別業容

	単位:億円	取扱高	営業債権残高 (流動化前)		
			前年同期比	期首増減	
国内	クレジットカード	38,940	106%	18,600	+1,436
	ショッピング (うちリボ・分割)	37,054	106%	14,385	+1,344
	キャッシング	-	-	3,414	+306
	キャッシング	1,885	101%	4,215	+92
	住宅ローン	3,202	122%	37,114	+1,508
	その他	-	-	13,433	+1,670
	国内計	-	-	69,147	+4,615
国際	クレジットカード	3,518	126%	2,948	▲10
	ショッピング	2,568	124%	1,503	▲9
	キャッシング	949	131%	1,445	▲1
	個品割賦	874	127%	3,330	+441
	パーソナルローン	1,165	119%	3,443	+234
	その他	-	-	2	+1
	国際計	-	-	9,723	+666

海外上場3社 中間期業績（現地通貨）

		FY 2023	FY 2024	
		中間期実績	中間期実績	前年同期比
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) HK\$' 000	Revenue	783,109	860,321	110%
	Profit before tax	230,865	203,211	88%
	Profit for the period	191,426	170,361	89%
AEON THANA SINSAP (THAILAND) BAHT' 000	Revenue	11,135,562	11,221,442	101%
	Profit before tax	1,887,040	1,710,108	91%
	Profit for the period	1,507,735	1,370,563	91%
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad RM' 000	Revenue	924,404	1,063,688	115%
	Profit before tax	291,145	245,961	84%
	Profit for the period	219,552	177,571	81%

海外上場3社 中間期業績 (円換算)

		FY 2023	FY 2024		為替レート
		中間期実績	中間期実績	前年同期比	
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	139億円	168億円	121%	<u>為替 (円 / HKD)</u> ・ FY2023Q2 : 17.79円 ・ FY2024Q2 : 19.63円
	Profit before tax	41億円	39億円	97%	
	Profit for the period	34億円	33億円	98%	
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	447億円	476億円	107%	<u>為替 (円 / THB)</u> ・ FY2023Q2 : 4.02円 ・ FY2024Q2 : 4.25円
	Profit before tax	75億円	72億円	96%	
	Profit for the period	60億円	58億円	96%	
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	Revenue	283億円	350億円	124%	<u>為替 (円 / MYR)</u> ・ FY2023Q2 : 30.69円 ・ FY2024Q2 : 32.96円
	Profit before tax	89億円	81億円	91%	
	Profit for the period	67億円	58億円	87%	

国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

(単位:億円)		中華圏(香港)		メコン圏(タイ)		マレー圏		国際事業	
			前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)
クレジット カード	取扱高	1,285	123%	1,867	127%	365	126%	3,518	126%
	債権残高	992	+94	1,647	▲153	309	+54	2,948	▲4
個品割賦	取扱高	-	-	141	132%	733	126%	874	127%
	債権残高	-	-	368	+88	2,961	+487	3,330	+576
個人ローン	取扱高	180	126%	630	121%	354	112%	1,165	119%
	債権残高	311	+41	1,803	+19	1,328	+292	3,443	+353
合計	取扱高	1,465	128%	2,639	126%	1,452	122%	5,557	124%
	債権残高	1,303	+135	3,820	▲43	4,599	+834	9,721	+926

セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

【貸倒引当金】

(億円)	国内計		国際計	国際計			連結計	
	リテール	ソリューション		中華圏	メコン圏	マレー圏		
期首貸倒引当金残高	556	30	530	643	47	358	237	1,207
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	123	▲2	125	351	46	173	131	475
貸倒償却額 (移管債権等含む)	177	6	170	315	43	162	109	518
期末貸倒引当金残高	502	21	485	679	50	369	259	1,163

※参考 国内子会社の期末残高

<リテール> イオン銀行:21億円
 <ソリューション> イオンフィナンシャルサービス:444億円
 イオン住宅ローンサービス:12億円

※個品割賦事業譲渡による減少
92億円含む

【利息返還損失引当金】

(億円)	FY2023 中間期実績	FY2024 中間期実績
期首残高	48	25
繰入額	-	-
利息返還額	15	8
期末残高	32	16

<参考> 2024年2月期 2Q会計期間 連結業績ハイライト

2023年度 第2四半期決算発表 再掲

- 国内は、経営統合費用4億円を特別損失に計上
- 国際は、マレー圏の営業利益が前年同期比で145%となり、国際事業は増益に転換

	連結		国内		国際	
		YoY		YoY		YoY
営業収益	1,209 億円	106 %	728 億円	100 %	488 億円	117 %
営業利益	110 億円	67 %	2 億円	3 %	103 億円	114 %
経常利益	117 億円	65 %	—	—	—	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	36 億円	35 %	—	—	—	—

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス